

5 単位対 6 単位半電子式符号変換装置

国内電信網と国際電信網を接続させるため、5 単位/150ms、6 単位/160ms の取り扱い情報間で、5 単位対 6 単位符号変換器は 1958 年（昭和 33）から機械式のものを使用していたが、障害、保守などに問題があったため、電子化を検討した。64 年に 6-5 変換器を試作、その後 5-6 変換器も電子化し、67 年に実用化した。これによって、蓄積素子は紙テープから磁気テープ、磁気ドラムへと変わった。

出典：KDD 社史